

収録・解説 酒井董美

語り手 片桐利喜さん

(明治30年生まれ)

昭和61年8月3日収録

あらすじ

昔、お寺があつて、スイトンという名の和尚さんと小僧さんがおつた。

毎朝、何かが来て「スイトン」「こう声をかけるので、「はい」と小僧が戸を開けると何にもないし、「不思議だ」と思つておつた。

月の明るい夜。「今日は何だか見届けちゃあけん、長屋に隠れちゃうます」と小僧は物陰に隠れていた。

そうすると、大きな狐がやって来て、尻尾で戸をすいーとなぜ、頭を「トーン」と当てれば、

やさしい語りで収まる

似せ本尊②

(西伯郡大山町高橋)



イラスト・福本隆男

とぼすやに蟬燭立つて、えて、飛び込んだのだつ明かなあやにしなは。小僧さんは「おっさおられるのだつて。隣の本尊さんが遊とそその狐が、一生懸命にけちやあら狐が中へ入あ」と和尚さんに言つて、和りや結構なことだわい」と、「せいなら、もうこの周りにおらんやあこ

「スイトン」と言つ。その狐が「スイトン、ど、狐はいない。」たし『いんやいんやしなはい』とて言や、いんやいんやしなはいよつたてなあ」と言つので。それでやつと小僧が言つた。それかと狐はこらえてもらつたら、「ホゾンさん、合点と。それからはそのような言つたら、一人のホゾン化けもが出ないようにさんが合点合点しなさなつたつて。

「いんやいんやしてみなはいな」つて言つたら、またそつしなさん。本尊のホゾンさんはそんなことはされないけれど、狐が化けているのだからねえ。それから、狐を捕まえ合もあるが、(ここではそて火あぶりにするとかいつたいへんな騒動だったそつな。い語りて収まつている。

解説

話ほどなたもご存じであるう。ただ、内容的にはいろいろなバージョンがあり、狐が殺される場合もあるが、(ここではそ合もあるが、(ここではそて火あぶりにするとかいつたいへんな騒動だったそつな。い語りて収まつている。

そつしたら、「悪ことしたけん(こらえて)し